

地域薬剤師会でサポートする 実務実習と薬局・病院・大学 との連携について

2023年4月28日

柏市薬剤師会 副会長

実務実習担当理事 秋山 恵美子

本日の内容

- 地域薬剤師会で行っている集合研修
- 実習報告会について
- ADWSより連携について考える
- 実習開始4週までの実習生アンケートより
- 指導薬剤師のアンケートより

実務実習の あるべき姿

- 薬学協議会の病院・薬局実務実習関東地区調整機構 実務実習ガイドラインには、実務実習に対する薬学教育協議会の基本的な考え方に基づいて

薬局実習は、ひとつの薬局で完結することを原則とする。

- 薬局の指導薬剤師はすべての実習を完結するのは難しいと感じています。
- 地域としての取り組みは地域で行っている現状を見てもらった方が理解ができると思う。
(災害対策・高齢化の現情、在宅や多職種連携・地域貢献)
- 実習の受け入れ先が困らないようにサポートする必要がある。

柏市の 実務実習 受け入れ推移

2019年	第1期	第2期	第3期	合計
薬局数	10	7	11	28
受け入れ人数	17	10	15	42
2020年	第1期	第2期	第3期	
薬局数	8	11	12	31
受け入れ人数	10	16	17	43
2021年	第1期	第2期	第3期	
薬局数	10	11	7	28
受け入れ人数	15	15	9	39
2022年	第1期	第2期	第3期	
薬局数	9	12	11	32
受け入れ人数	12	18	15	45
2023年	第1期	第2期	第3期	
薬局数	11	14	10	35
受け入れ人数	15	20	15	50

R4年度実習生 アンケート より

大学での講義と実際の薬局業務で体験したことの違いはなにか？

- 一般名（成分名）ではなく商品名での記載で覚えるのに時間がかかった。
- 個々の疾患や薬品だけではなくいろいろな疾患が混ざり合っているのが難しい。
- 患者さんが待っているのが時間の制限があり早くさばく必要があった。
- 機械化が進んでいた。必ずしも添付文書どおりではない。
- 大学では薬理学的知識と薬物治療学が必要だと思っていたが実際は製剤学的知識と薬物動態学的知識が必要。

今までの実習で印象に残ったこと

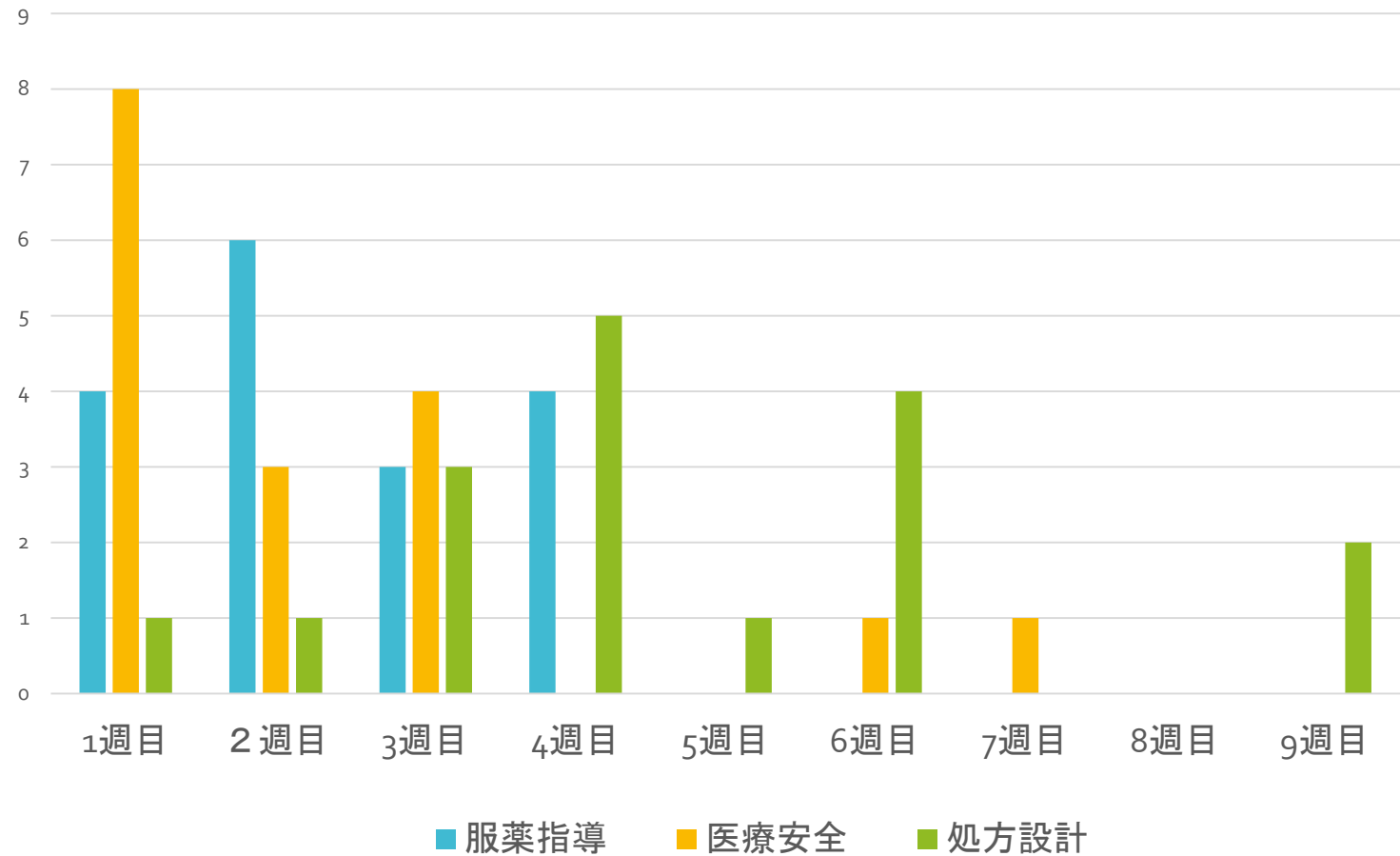
（自分が成長したこと、薬剤師の業務）

- 軟膏、散剤、計数調剤が早くできるようになった。取り違え等調剤過誤の意識
- 在宅医療や学校薬剤師の業務
- 処方された薬が適切かなど調べることができるようになった。患者さんから話をしっかり聞く理由。副作用が重篤化ではなく日常生活で支障をきたすものについては知らなくてはいけない。

1日の実施件数	調剤数	処方鑑査 医療安全	服薬指導	処方設計 薬物療法
I 期	25.0	1.1	2.2	0.8
II 期	23.9	4.2	2.0	4.1
III 期	16.0	2.3	2.7	5.8

R4年度 指導薬剤師 アンケート より

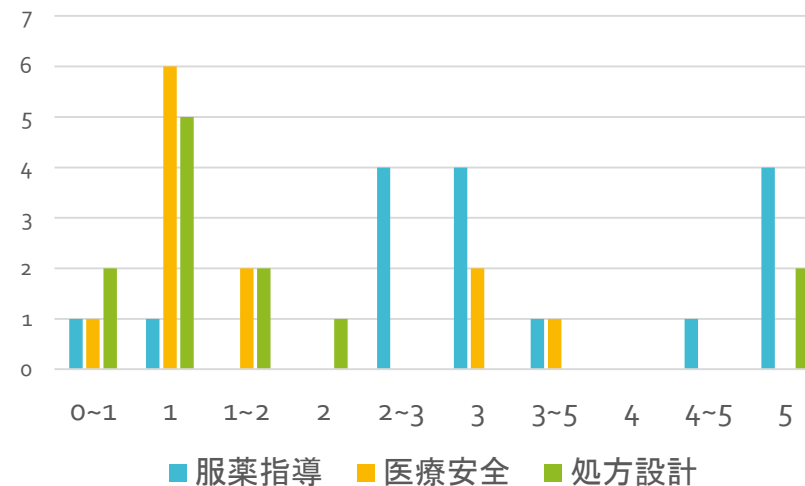
開始した時期



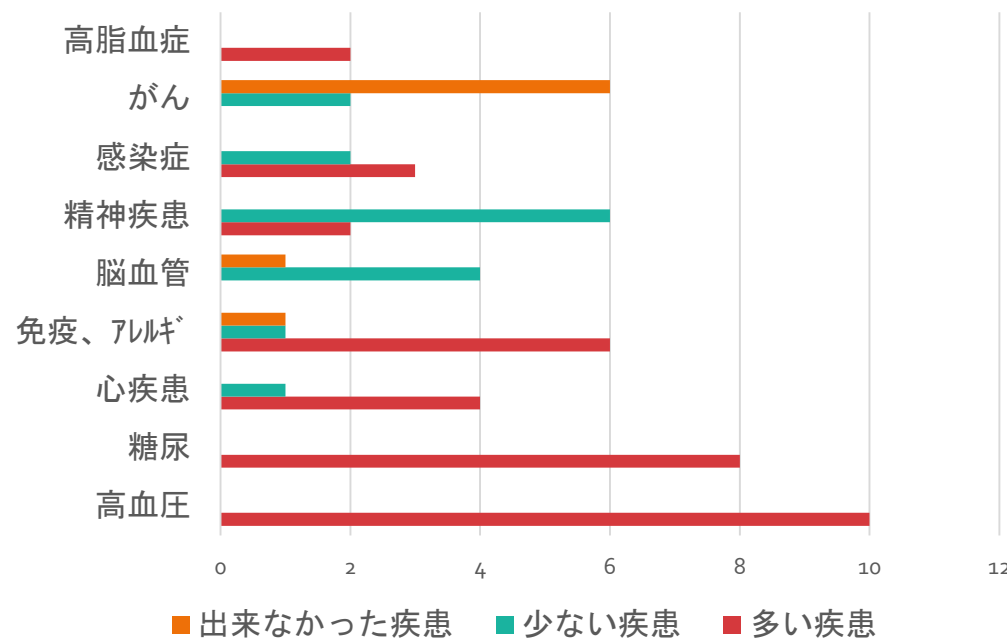
R4年度 指導薬剤師ア ンケートより

服薬指導は1日2~3件
医療安全、処方設計は
1日1件程度実施してい
る。

1日の実施件数



疾患別実習内容



多く実施できている疾患
は高血圧や糖尿病、アレ
ルギー疾患だった

あまり実施できていない
疾患はがん、精神疾
患、脳血管疾患だっ
た。

薬剤師会 集合研修会

- 実習開始4週目～5週目に実施
- 高齢化の現状、介護保険について
(高齢者支援課・地域医療推進課、地域包括支援センター)
- 在宅医療
- OTC実習
- 学校薬剤師
- 救急医療（夜間休日診療体制）
- 災害医療について
- 地域で活躍する薬剤師
- 専門医療機関連携薬局、地域連携薬局について

実習報告会

- 10週目にZoomで実施する。
- 実習で印象に残ったこと、成長したと思う症例など
- 学生はパワーポイントで5分にまとめる。(口頭のみでも可)
- 指導薬剤師、大学の先生、病院実習指導薬剤師は自由参加



学生の 報告内容

- 在宅実習での指導や工夫
- 往診同行（多職種連携の実践）
- 無菌調剤の実践、キャドポンプなど
- 薬局で行った認知症の啓もう活動（認知症テストなど）
- 学校薬剤師の活動（給食室、空気や照度、薬物乱用）
- 服薬指導、吸入指導、運動療法、患者さんからの言葉
- 患者さんとのコミュニケーション、伝え方の工夫
- 患者さんに寄り添うことの意味が分かった。
- 将来なりたい薬剤師像が見えてきた。意識が変わった。
- インプットとアウトプットの繰り返しにより薬学的な知識の向上
- 処方解析、処方意図が分かるようになった
- 減薬の提案、禁忌症例による処方提案、ブレアボイド報告
- 便秘薬に対するアンケートによる患者さんの気持ちの分析

実施による 効果

【指導薬剤師から】

- 他薬局で行っている実習の工夫など参考にしたい。
- 学生がどのように感じたのかを理解できる。
- 他の学生さんがどのような実習をしたのか知る機会となる。
- 他の学生の実習が知れて参考に、刺激になると。
- アウトプットの機会となる。
- 学びを振り返る機会となる。
- 学生自身が成長した事例の発表を参考に次年度の実習に取り入れたり学生自ら参加できる内容に変更している。
- 学生の負担になるのではないか

ADWSより

- 令和4年度に県薬剤師会で行われたADWSより実務実習で病院、大学、薬局の連携の方法をGWで話し合いがあった。
- 病院では薬局実習の内容を日誌で見ることができるが実際に見る人は多くはない、薬局の実習内容を理解されていない。
- 学生のいいところや不得意なこと、薬局ではうまく取り組めなかったことを伝える機会がないとWSで話し合われた。
- 実習報告会は他の支部でも行われていたが、次期実習先の病院や大学を招待して行われているところはなかった。



- 報告会では学生の発表後に質問タイムを設けているのでその際に病院、大学、薬局の指導薬剤師より学生への言葉をもらうことにした。

R5年度第1期報告会では実習生の大学からはすべて参加、病院実習先も半数が参加していただいた。

今後の展望

- 報告会を通して薬局から病院へ、大学との連携を実践する。
- 多くの指導薬剤師の参加、病院の実習先の参加しやすいように工夫する。
- 学生がどのようなことに興味を持ったのか知ることによって実習をレベルアップさせる。
- 他薬局での取り組みを参考に自薬局の実習を振り返る。
- 初めて受け入れを開始する指導薬剤師に参加してもらい実習時に参考にしてもらう。
- 地域の薬局の実習の質を高めることができるのではないか
- 他薬局の実習の様子を知ることによって自分の学生の評価が厳しくはないか、甘くはないか考えるきっかけになる
- 地域薬局の指導薬剤師同士のコミュニケーションを深めることでお互いの悩みを解消してよりよい実習にしていく。

ご清聴
ありがとうございました

